

造山第2古墳発掘調査現場公開資料

岡山市教育委員会

日時：令和3年11月28日（日）

場所：岡山市北区新庄下（発掘現場）

○はじめに

岡山市教育委員会では、造山第2古墳の範囲確認調査を10月中旬より進めており、この度、確認された遺構を一般に公開するはこびとなりました。今回は墳丘の西側を中心に第2古墳を廻る周溝や埴輪列の確認を目的として発掘調査を行いました。結果、墳丘の裾や周溝、埴輪列等がみついています。こうした遺構や遺物の検出は築造当時の姿を復元する上で欠かせません。

○造山第2古墳の概要

造山第2古墳は群内唯一の方墳で、5世紀中頃に築造されたと考えられています。これは造山古墳群の中でも新しい時期になります。埋葬施設や副葬品については不明です。過去に墳丘の南東から北東にかけて数度の発掘調査が行われました。現地地形では約20mの方墳ですが、一辺が少なくとも30m以上になると考えられ、南東から北東にかけて深さ約1.5mの周溝がめぐっていたことも判明しました。周溝の幅は場所によって1.5～3mと異なります。また、1997年度の調査では周溝の外側には円筒・朝顔形・盾形埴輪からなる埴輪列が確認できました。しかし、当時はこの埴輪列が第2古墳に伴うものかどうか決着が付きませんでした。造山古墳やその後の作山古墳の周辺には大型の方墳が分布しており、造山第2古墳は当時の周辺部との関係性を考える上でも重要な古墳です。

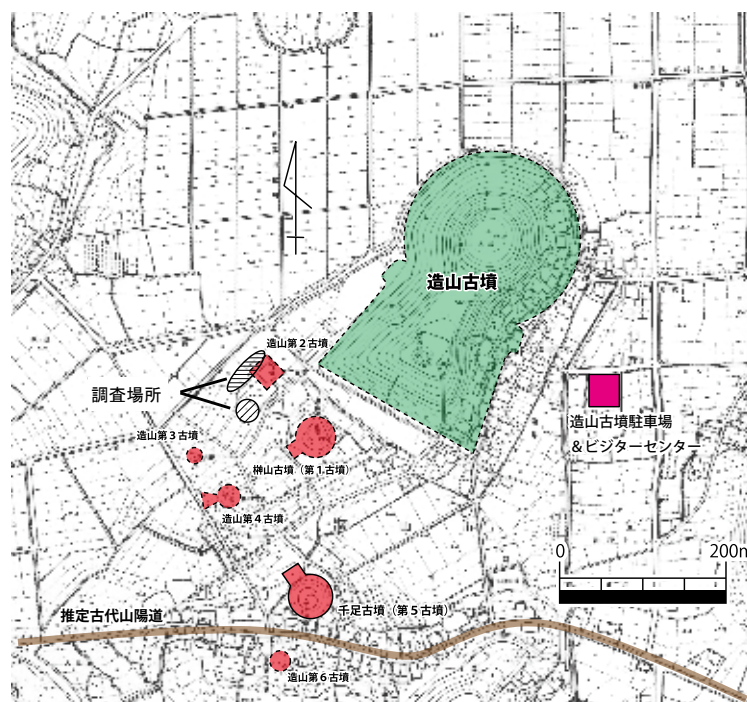


図1 調査場所の位置

○調査成果

今年度の調査は、第2古墳の規模や構造、97年度の調査で出土した埴輪列の続きを確認するため、墳丘の南西から北西側にかけて調査区を8ヶ所設定しています。今回の調査では未解明だった埴輪列や墳丘規模について一定の成果をあげることができました。

後世の改変によりトレンチごとに段状になっていますので、南西側（T1、2、3、6、7）と北西側（T4、5、8）に分けて説明します。

●南西側（トレンチ1、2、3、6、7）

トレンチ2と7の一部では墳丘に並行する形で埴輪列が確認できました。埴輪は径が27cmのものと、24cmのものがあり、径が小さい埴輪は盾形埴輪になると考えられます。また、埴輪列の外側には幅約1m、深さ約0.3mの溝が伴っていました。この状況は97年度調査で確認できたものと同じと推測されます。しかしながら、トレンチ1、6、7の一部は後世の改変により築造当時の姿は留めておらず、残念ながら埴輪列がL字に折れ曲がる部分を確認することができませんでした。推定ですが、トレンチ7の真ん中で折れ曲がると考えられます。

トレンチ3においては、発掘を行った最深部まで後世の土がみられ、古墳に関する遺構は残っていませんでした。

●北西側（トレンチ4、5、8）

トレンチ4、5ではそれぞれで墳丘側の基底石、周溝、周堤側の基底石を確認しました。使用している石材は主に花崗岩であり、少ないですがその他の石材も確認できました。トレンチ5と97年度の結果から、第2古墳は一辺35m程度に復元されます。周溝の幅はトレンチ4では3m程度、トレンチ5では2m程度となり、場所によって異なります。また、葺石の検出高から南東側から北西側にかけて墳丘の最下段の高さを合わせていることも判明しました。残念ながら葺石の最下段しか残っていませんでしたので、西側の周溝の深さや周堤の高さはわかりませんでした。当時は南側と同程度の高さまで周堤があったと推測されます。

埴輪列に関しては今回の調査では確認できませんでした。本来ならば調査区の外側に存在していたのでしょうか。

○出土遺物について

埴輪列の周囲や周溝の埋土から多くの埴輪片が出土しました。埴輪列からは円筒・朝顔形・盾形埴輪が、周溝埋土からは円筒・朝顔形・蓋形・盾形埴輪が出土しました。これまでの成果とほぼ一致しており、5世紀中頃と推測されます。

埴輪列の中には榊山古墳や作山古墳、南坂1号墳から出土した埴輪と似た特徴をもつものがありますが、それらの比較検討は今後の課題となります。

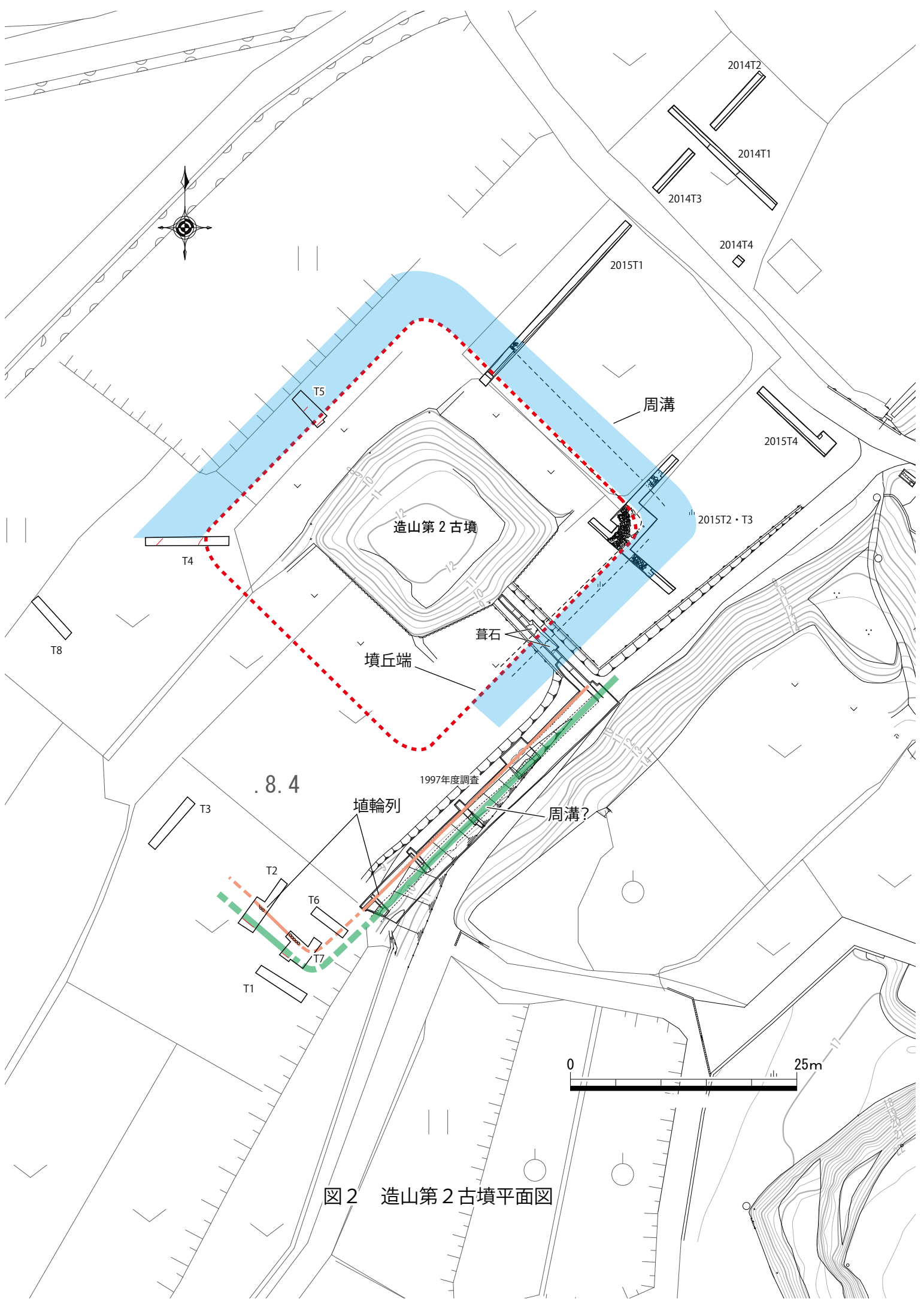
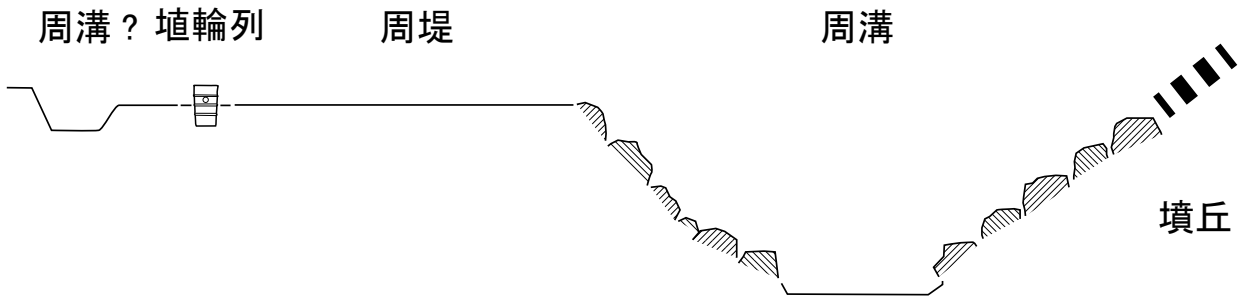


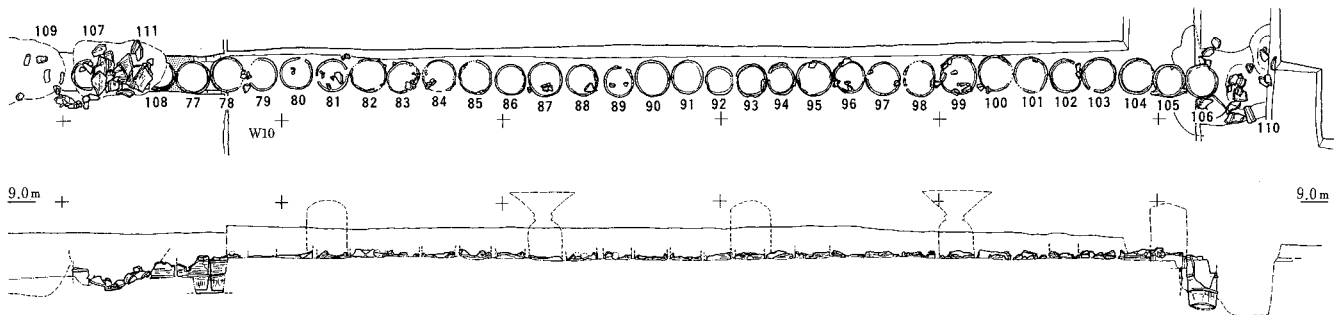
図2 造山第2古墳平面図

○おわりに

今回の調査により、第2古墳を廻る埴輪列や溝の存在が明らかになりました。これにより第2古墳の範囲は埴輪列の外側を廻る溝までとわかりました。また、第2古墳の墳端も確認することができ、1辺35m程度に復元できそうです。正確な墳形は今後の課題として残りましたが、当時の姿を知る上では貴重な発見と言えるでしょう。

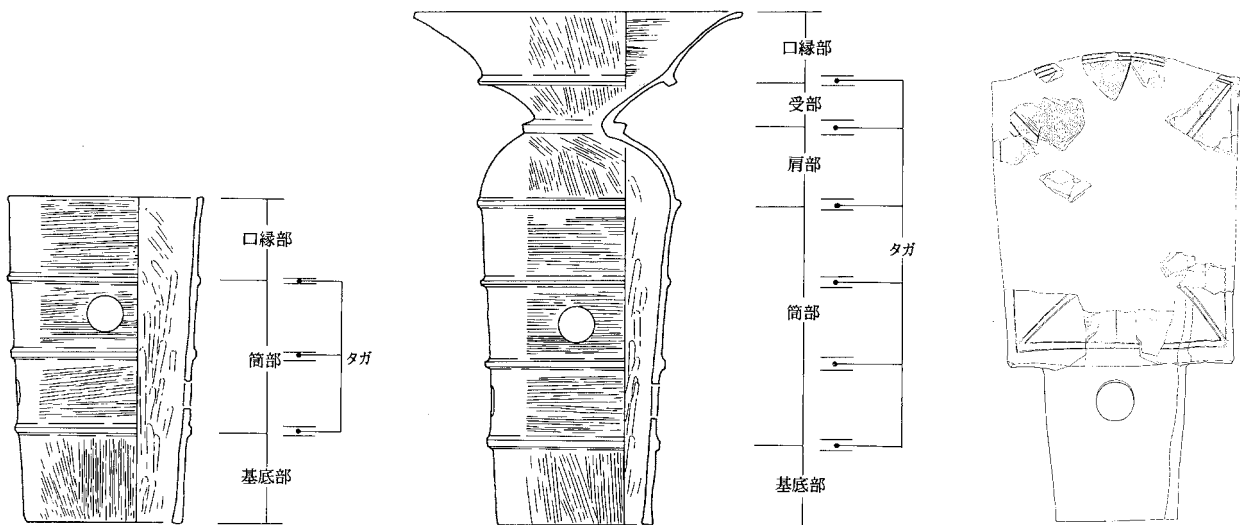


造山第2古墳 構造模式図



97年度調査時の埴輪列

(復元していないものは円筒埴輪)



円筒埴輪

朝顔形埴輪

盾形埴輪